

BUNKY^o 文協

長崎県文化団体協議会

2007.1

66

- 地域文化の担い手／
（社）長崎民謡舞踊連盟 石橋輝夫
- HALL Staff (ホールスタッフ)／
松浦市文化会館 大宅貴光
- 第5回 長崎県ライトミュージックフェスティバル



BUNKY^o 文協



BUNKY 文協

2007.1 長崎県文化団体協議会 66

C O N T E N T S

地域文化の担い手

- 踊りで国際交流を 2
(社)長崎民謡舞踊連盟 石橋 輝夫
- 人形浄瑠璃を迎えて 5
新上五島町文化協会 会長 戸田 正彦



郷土の芸術家公演事業

- 南風に乗せて 6
南島原市教育委員会生涯学習課 永吉 宏大
- 汗と情熱のはじけた舞台 7
西海市教育委員会社会教育課 諏訪 勝郎



日本の伝統芸能公演事業



- 盛秋の島を吹き抜けた
爽やかな琉球の風 8
平戸市生月町博物館 島の館学芸員
中園 成生

地域の文化発信・交流促進事業

- 第8回 日韓国際交流文化祭を終えて 9
石田町文化協会 事務局長 江藤 小夜子

HALL Staff (ホールスタッフ)

- 松浦市文化会館 大宅 貴光 10



第18回 長崎県民文化祭

- 第5回 長崎県ライトミュージックフェスティバル 12
- 長崎交響楽団～もってこいコンサート～ 14
長崎交響楽団 団長 大槻 隆
- 対馬に音楽の華が咲く！ 15
県立対馬高等学校吹奏楽部 顧問 中村 明夫



クレッシェンド・シーハットおおむら便り

- シーハット・ミュージカル劇団 16
“天正遣欧少年使節ミュージカル”公演に向けて 藤崎 澄雄

若手アーティスト派遣事業

- 江迎町音楽祭 古田 梨紗・飯盛文化祭 山口 弥生 17



EVENT GUIDE (イベントガイド)

- 佐世保市民管弦楽団 第50回 記念定期演奏会 17
- 第51回 長崎県美術展覧会公募展 18
- 美術館・博物館 19
- 編集後記 20

踊りで国際交流を

地域文化の担い手・(社)長崎民謡舞踊連盟 石橋輝夫



「平成17年 長崎民俗舞踊研究会 民踊大会」(平成17年11月20日長崎市公会堂)にて「還暦祝節」を踊る石橋輝夫氏(当時71歳)



「唄に合わせて踊る」ことの楽しみを伝えて半世紀。全国各地へまわって指導し続けている石橋輝夫さん。フォークダンスから始めた踊りの輪は、現在では名取クラスだけで2300人に広がり、その弟子まで含めた会員数は「多すぎて把握できない」くらいにまで増えた。こんなにも会員が増えた理由は、「やり方がよそのと違って、師匠と弟子という関係を取っておらず、指導者の育成という形で教えた」から。指導者の育成をし、その資格を持った者が各地で教える。各地で教える分には自由という形をとってきた元県職員である。若い時から体を動かすことが好きだった。YMCAのクラブ活動に入り、フォークダンスやコーラス、ゲームなどをやっていた。当時その中でも一番若かったもので、あまり盛んでなかった民踊の担当にさせられた。ちやうど、小中学校のPTAが運動会で踊りたいという動きが盛り上がった時期でもあり、次第に参加人数が増えた。そのうち1人で教えるのにも限界が来たことから、諏訪神社境内の諏訪幼稚園の講堂を借り、指導者の育成を始めることになった。当時、23歳(昭和27年)、それから20年近く同幼稚園の講堂で指導は続いた。

その講堂が宮司さんの養成場になってからは、市内の小中学校の講堂を借りたりして練習場を転々としていたが、「時間的に会場がなくなった」ことから「自分たちの会館を建てよう」という気運が高まり、昭和56年長崎市白鳥町に長崎民踊会館を建設。土地は長崎市より有償で借り、建物は



長崎まつり(昭和60年)(左)・伊予万才(愛媛県)(上)

会員からの寄付でまかなわれた。公的機関からの補助を受けずに建てた日本で初めての民踊会館であった。

先代の中山義夫との出会いは、昭和27年栃木県日光市での全国レクリエーション大会のこと。長崎県代表の1人として出場したら、大会の指導者であった先代の民踊に惚れこんでしまった。教えを請いに年に7、8回東京まで習いに行ったり、福岡まで来られた時に行ったりして、中山流の踊りを身につけた。そうして、「もっとも踊りやすい方向で、レクリエーション活動にマッチした振り付け」をしていた先代の方針を確実に受け継いだ。先代が亡くなると、師範の中に男性が少なかったということもあって、「全然そういうつもりはなかったが」2代目を受け継いだ。

中山流の振り付けの特徴は、先代がバレエ、日舞、仕舞をやっていたこともあり、それぞれの良さを色々と汲み入れているところだ。色々混じっているからこそ、堅苦しくなく誰でも入り込みやすい。振り付けは年に6、8曲、ビクターから依頼されて行っている。今までのヒット作としては「無法松の一生」「あじさい旅情」。これらは各地の市民文化祭、町民文化祭で踊られている。レクリエーションダンスの振り付けでは、全国の盆踊りで親しまれている「三味線ブギウギ」「浴衣音頭」。「振り付けを考えるのは、車で通うときに、カセットテープを聴きながらや、夜、家に帰ってきてからせつぱつまってからのが多いですね」



キツネおどり(大分県)(左)



最上川船唄(山形県)

「良かったー」感動しました。「ありがとうございます」第18回長崎県民文化祭第4回人形芝居フェスティバルの公演後の声、声、声。地元関係者にとって何よりのことばです。

一週間たっても「鯨賓館ミュージアムホール」での感動はさめやらず、「三番叟」に始まり、「傾城阿波の鳴門」「鶯娘」の舞、「弥次さん喜多さん」そして浄瑠璃で「フラメンコ？」と意表をつく演出、演目の数々を思い浮かべながら話の種がつきません。

西川古柳座の方々、乙女文楽の桐竹蘭紗也さん、そして皿山人形浄瑠璃保存会の面々。いずれも国内屈指の演じ手の舞台に、二百五十の客席も、三時間余の心地よい時の流れを共有したと確信しました。

当地では生の芸術文化にふれる機会が乏しいのですが、今回の「人形芝居フェスティバル」ではタイミングの良い拍手、思わずもれる溜息など客席の反応に感動しました。それはとりもなおさず公演の内容がすばらしかったからに他なりません。

一方、人形芝居フェスティバルを盛り上げたのは公演の舞台進行を務めた地元県立中五島高校の放送部のがんばりがありました。館内の緊張した雰囲気なごましてくれました。

またひとつ種がまかれ、文化の芽が芽吹くものと期待されます。

最後に、「八王子車人形西川古柳座」「乙女文楽」「皿山人形浄瑠璃保存会」の皆様、関係各機関とりわけ波佐見町、新上五島町の教育委員会事務局のご努力に感謝申し上げます。そして当日の客席の方々にも「ありがとう」のことばを贈ります。



乙女文楽、桐竹蘭紗也さんによる「静」

11月24日(金) 波佐見町総合文化会館
11月26日(日) 新上五島町鯨賓館ミュージアム・ホール

人形浄瑠璃を迎えて

新上五島町文化協会会長 戸田正彦

「民踊の楽しさとは、リズムに乗って踊れる、楽しめる。あまり堅苦しくなく、スッと入れるところなんです。日舞の長唄小唄は言葉が分かりにくい面があります。その点、民踊は歌がはつきりしていて、知っている歌も多いし、親しみやすいです」

全国で待つ会員に指導するため、年に1〜2回四国、北海道、東海、関東甲信越の支部を回り、九州圏内は3ヶ月に1回福岡で講習会を開いている。昨年は2年に1回の全国大会の年で、神戸に800人を超す会員が集まった。平成20年には長崎で全国大会が控えている。

指導者の養成と共に、力を入れているのは青少年の海外交流。3年前の上海国際少年児童文化芸術祭では、振り袖姿で踊る長崎の子ども達は各国の子ども達に大変な人気で、一緒に写真を撮ろうとする子が跡を絶たなかった。20数カ国から集まった子ども達はカタコトの英語で、コミュニケーションをとり楽しんだ。その後、文通をしている子ども達もいて本当の国際交流はこういう事を言うのだと実感させられる。

「一度連れて行った子は、いい思い出を作っているみたいで、必ずまた行きたがります。以前、小学生の頃行った子が、成人して今度は父兄とともに引率者として行くこともあるんですよ。そして、小さい子の面倒を見てがんばっています」



事務局の 額川 加代美さん(左) 小川 絵美さん(右)



(社)長崎民謡舞踊連盟
〒852-8042 長崎市白鳥町8-1
事務局担当 額川加代美
TEL.095-845-9809

子どもの頃からの国際交流は、本当の国際交流を生みます。ぜひ、県や市当局はその辺のことを考慮して支援して欲しいですね。

民踊というと盆踊りかなんかと勘違いされていますが、違うんです。一度見てみて下さい。極力交通費だけでも出していただければ、皆さん方に珍しくて楽しい民踊をご紹介しますよ。会員で時間の空いている者も多いので、近くから派遣します。ぜひ声を掛けて下さい」

取材の日は、月踊会のお稽古日。民踊会館の2階には、県下各地から100人を超すお師匠さん達が集まり、2時間余り練習に励んでいた。踊りの指導に入ると、石橋さんの目が2代目中山流家元の厳しい眼に変わった。

(取材・野崎)



はえんかぜ 南風にのせて

「エイサーと島唄と三線の調べ」

台風の接近により開催が心配されましたが、関係者とお客さんの熱意により(?)無事開催することができました。オープニングは琉球國祭り太鼓(長崎支部)のエイサー「かぎやで風」が盛大に、そして第1部に「島唄の風」をテーマに「金城安紀さん」によるステージ。金城さんの歌声と演奏を通して、琉球の風が伝統と文化を運んできたようなステージでした。つづいて沖縄の『肝心(ちむぐくるより深い心)』をもっとたくさん人の心に伝えて行きたいという願いを込めて命名された、沖縄の女性デュオ「teamくるくる」のステージ。お二人の透명한歌声は、どこか懐かしさを感じさせ、会場を優しく包み込みました。休憩のち、第2部「南風」のせてをテーマに、ワークショップに参加した、地元小学生による「エイサー」2曲を披露。練習の成果を十分に発揮し、元氣いっぱい踊りを披露してくれました。会場が最高潮の雰囲気の中、オープニングを飾っていた「琉球國祭り太鼓」(長崎支部)が登場。沖縄の伝統芸能「エイサー」に空手の型やポッポスなどを取り入れた、オリジナリティーあふれるもので、特徴的なバチさばきと勇壮でエネルギッシュな演舞を披露していただき



琉球國祭り太鼓

9月16日(土) 南島原市ありえコレジヨホール



ました。この日は熊本・宮崎・鹿児島支部の皆さんの応援もあり大人数での演舞は迫力満点でした。そして最後の曲では客席を巻き込み会場全体がステージとして島唄のリズムに合わせて、みんなで唄ったり手をたたいて踊ったりして盛大なフィナーレを迎えました。この日、南島原市には、琉球の伝統と文化をのせた「南風(はえんかぜ)」が秋の空に広がっていました。

南島原市教育委員会生涯学習課 永吉 宏大

汗と情熱のはじけた舞台

和の饗宴2006 バチバチジョイントライブ

予想外の入りだった。もちろん、動員をかけた。前売りの状況も悪くはなかった。それでも、果たしてどれだけ集まるか。不安は拭えなかった。ところが、開演1時間前には、入場を待つ人々が行列をなした。

西海市大島文化ホールは、旧大島町に位置する。市内在住者であっても、島民以外には有料道路である大島大橋を渡らねばならない。また、西彼杵半島北部の、それも島という立地条件は、たとえ興味深い公演があったとしても、市外の方々には物理的にも心理的にも足枷となつてゐる。集客条件がきわめて悪い。

にも拘わらず、この度の公演が盛況であったのは、既述の悪条件を克服しえる企画であったことが大きいように思う。当初、それは、「邦楽(太鼓)」といった漠然としたものだった。

プロの太鼓グループと地元太鼓グループとの共演という大筋はあったが、現在、常時活動する市内の太鼓グループは2地域の各1団体に限られ、5町の合併により生まれた西海市にあってはアピール度に欠けると思われた。ここに「三味線」が浮上した。三味線のグループなら旧5町という市全地域にもれることなく存在し、高齢者の多い市民の広くに興味を喚起するものと考えられたからである。太鼓のみならず三味線を加えての、全

西方小天鼓



11月19日(日) 西海市大島文化ホール

市へのアピールが構想された。

地元太鼓グループのひとつである黒潮太鼓(西海町)は、勇壮で重厚な演奏をもって、舞台の幕開けを飾った。石井流津軽三味線秀旺会は、高度な技術とユーモラスな演出とを融合させ、その見事なパフォーマンスは聴衆を魅了した。地元太鼓グループのもう一翼を担う「潮太鼓(西彼町)」は、女性を中心とした華やかな撥捌きと清冽な演奏とで、舞台に花を添えた。西方小天鼓は、ワークショップでは、太鼓の楽しさや魅力を参加した児童および会場の聴衆に語りかけた。また、舞台では、躍動感にあふれ、汗と情熱のはじけるステージを繰り広げた。一見単純とも思える太鼓の、無限の音楽性および創造性を示し、圧巻であった。

「初めて来た」という声を、今回、よく聞いた。地元太鼓グループの応援に駆けつけた人、三味線を習っている人、太鼓愛好家、ワークショップ参加児童の応援、西方小天鼓ファン……各々の動機はさまざまであったが、そのさまざまな動機を誘引する公演内容のもつ広がり、多くの市民を会場へと運んだ。出演者の名実もさることながら、公演をめぐる環境や地域を俯瞰しての総合的な企画力こそ、現在問われているとあらためて学んだ。

西海市教育委員会社会教育課 諏訪 勝郎



第8回

韓国国際文化交流祭を終えて

11月30日(木) 国立国楽院大劇場(韓国ソウル市)

仁川空港に13時20分到着し、出口に行くとき皆さんの笑顔が見え、日の丸と韓国国旗の小旗を打ち振りながら出迎えて下さいました。

その夜は市内のホテルで「第8回韓国国際文化交流祭の夜」が開催され、国楽振興会理事長のご挨拶のあと石田町文化協会長の挨拶があり、乾杯となり和やかな雰囲気での交流の夜でした。11月30日本番当日、楽器(太鼓)が別便で博多港から釜山経由で、国楽院に午後2時頃到着。

リハーサルの後、午後6時開演となり、国楽振興会は今年度は舞踊が中心ということであてやかな韓国の民族舞踊が次々と発表され、その演技は素晴らしくすっきり魅了されました。午後7時30分いよいよ日本側「風舞組」の出番となり、客席の私達も緊張し、「風雅・海潮・沓州荒海太鼓」と演奏が進むにつれ演奏者(11名)と客席からの手拍子も高らかに一体となり、それはすごい盛り上がりとなりました。太鼓の演奏に合わせて、まるで太鼓の機を打ってたたいているかのように手を動かしている人、踊る人もいました。

感動のあまり涙ができました。

国楽振興会理事長 金種培氏が文化祭終了後の晩餐会

日韓国際文化交流事業は平成11年11月3日、石田町改善センターに於いて第1回目を開催し、国際文化交流祭・交流の夕べを実施。

韓国の伝統芸能と石田町文化団体の発表を行い、文化の交流と友好親善の場を設けました。

今年度は第8回韓国国際文化交流祭が平成18年11月30日に韓国ソウル市、国立国楽院大劇場で開催されました。今回は勝本町の風舞組(太鼓演奏)に公演をお願いし、参加者22名が11月29日、午前7時発のフェリーで出発しました。

石田町文化協会 事務局長 江藤小夜子

の挨拶で「太鼓の演奏は韓国にもありますが、こんなに素晴らしいものを見せていただけてありがとうございます。観客の応援が、手拍子が演奏者に届いたと思います。皆さん!こんなに声援を受けたことがありますか?こんな立派な演奏を、そして素晴らしい感動を下さってあげよう!」と高い評価をいただきました。太鼓の輸送など難しい問題にぶつかりながら、大成功したことを大変嬉しく思いました。

韓国と日本の間には、いろんな問題があり、言葉の自由さもありますが、両国の心と心の親睦は十分出来ており、当初の目的通りの成果をあげることができました。この事業が沓州市の発展につながっていくよう、会員一同努力致します。今年度は沓岐で再会することを約束して参りました。今後ともよろしく願っています。

最後になりましたが、この事業が無事に終わりました。ご支援いただいた長崎県、長崎県文化団体協議会、沓岐市、沓岐市教育委員会、沓岐市文化団体協議会、出演していただいた風舞組団員の方々、太鼓の輸送にご尽力いただいた関係者の皆様方に深く感謝申し上げます。



神谷幸一 琉球ライブ

10月14日(土) 平戸市生月町開発総合センター
10月15日(日) 鹿町町文化会館

盛秋の島を吹き抜けた 爽やかな琉球の風

神谷幸一琉球ライブ2006体験記

平戸市 生月町博物館 島の館 学芸員 中國 成生

一昨年10月に、生月は平戸、田平、大島と合併して平戸市となりました。合併のご多分に漏れず、新平戸市は極度の財政難。予算がかかる公演事業などは夢のまた夢状態。これで生月の文化事業も開店休業、担当の私も今年(18年)はさぞや楽できよう、と、半ば皮肉混じりにたかを括っていました。しかし、あにはからんや春先から、映画上映、教会での合唱コンサート、そして琉球ライブと、金は殆どかからないが、面白い事業が目白押し状態となり、結果的に、例年より忙しい一年と相成り、内心ほっとした次第です。それもひとえに生月町文化協会の皆さんの、「合併して、気持ち沈滞しがちな今こそ、文化の光と賑わいで生月を活気づけよう」という意志の結実だと思います。

10月14日、県文化振興課のお骨折りで開催される事となりました「神谷幸一琉球ライブ」は、こうした想いを理解したかのように、底抜けに眩しい琉球の太陽の輝きを、三線の音色に乗せて島に運んでくれました。前日までの心配をよそに、客席500の開発総合センターホールは超満員状態。そんななか、アップテンポの三線の調子に合わせて琉球民謡を唄う神谷さんと、美しい娘さん達の琉球舞踊に、観客も大いに魅了されました。思えばこのハイテンポは何処か懐かしそう、それこそまさに生月にも伝わるハイヤ節のテンポであり、往古の黒潮の民の交流を物語るビートなのでした。

後半の、スペシャルゲスト石嶺聡子さんのコンサートは、まるで海辺のアダムの葉陰を吹き抜けていくそよ風のような、涼しくしかし暖かい気持ち、観客に分けてくれました。最後は、ワークショップで琉球の音にじかに触れた子供達も舞台上上がり、まるでカーチャーシ祭の様な喧噪の中で、至福のライブは幕を閉じたのでした。



左上から 津田大輔さん 直田裕也さん
桑田芳昭さん 川崎良郎さん 大宅貴光さん



松浦市文化会館 大宅貴光さん

長崎県の北部に位置し、水産業が盛んでトラフグ、ブリ、クルマエビなどの養殖業やアジ、サバは日本有数の水揚げ量を誇る。石炭専焼火力発電所や民間のLPG基地、完成間近の国家備蓄基地などエネルギーを生かした町づくりが進められており、歴史においては、水軍松浦党が有名なところ。

平成18年1月1日、

福島町、鷹島町と合併し、人口約2万8千人の新生松浦市として誕生した。その、「海と歴史を生かした文化都市」松浦の文化拠点として松浦市文化会館がある。市の中心部からやや離れた海沿いに、曲線と直線をうまく組み合わせた白い外観が美しい建物がたっている。中に入ると広々とした空間があり、窓から景色がよく見え開放感がある。その会館に勤務している大宅貴光さんは5年目のベテランである。

「今まで多くの自主事業を行ってきていますが、一番印象に残っているのは、異動して2年目に行った『宮本妥子さんのマリンバコンサート』。コンサートの前に小学校4ヶ所へアウトリーチ（出前コンサート）を行うのですが、ただ演奏家に来てもらって演奏して終わりではなく、音楽を楽しめるような仕掛けがあります。その1つ



宮本妥子 マリンバコンサート
(ワークショップ風景)

を挙げれば、地域の民話に音楽をつけて、読み語りをする『音楽、民話、語りのコラボレーション』。ここでは民話の再発見、地域の人材の再発見、演奏家と地域との繋がり、芽が生まれました。そして、やはりアウトリーチの時の子ども達の喜ぶ顔が印象的でした」

マリンバの演奏を実際に目の前で聴いて感動したのか、泣き出す子もいた。

「この事業をやった本心に良かった、これからも続けていかなければと思います」

現在2児の父親らしく、子ども達の喜ぶ顔が大好きで目を細めて話す顔が印象的だ。

5年前、会館へ配属になったときは、市役所から離れていた分室のような所に、「何でこんな所へ...」と思っていた。今まで、全くというほど文化とは関わり合いがなかった。むしろ、体を動かすことが好きで小学校から続けた空手は今では2段の腕前である。大学は、工学部の機械工学科、大学卒業後、3年間民間で生産管理の仕事をしてきた。「このままでいいのかな？」という悩みと、「地元に戻りたい」という思いから、松浦市役所を受験し、合格。平成12年4月水産課へ配属となった。その後、平成14年に文化会館へ異動。

これからは、大きな事業として市民ミュージカルをやってみたいです」

シーハットOMURAの藤崎さんにやりたいと言ったら、「一度見において。うちも何もわからず長崎へ見に行つて、出来たから」といわれ「ぜひ実現したい」と意欲を燃やしている。

「今年で5年目、今度はいつ異動になるかわからないが、それまでに一つ大きな事業ができれば」と仕事への熱意を語った。「市の直営ホールは人事異動があり人が入れ替わるので、その時にスムーズに引き継げるように、県で講座をやってもらえると有り難いですね。ソフト事業、自主事業、市民参加型事業のノウハウも知りたいですね。」いきいきと抱負を語る目が輝いていたのが印象的だった。

限られた予算の中で、地元の人達と地域の持つ歴史を使って新しい文化を創り出せるよう期待したい。

(取材・野崎)



松浦市文化会館 〒859-4501 長崎県松浦市志佐町浦免1110番地
TEL 0956-72-5758 FAX 0956-72-5784

◎敷地面積 18,000m² ◎ゆめホール 505人収容
◎建築面積 5,686m² ◎ふれあいホール 1,499人収容
◎延床面積 7,192m² ◎小ホール 200人収容





RayzMIST (レイズミスト)

今回、ライトミュージックに出場させて頂いて、メンバー全員いろんな経験をする事が出来たと思います。

初のコンテストと言う事で今までに無い緊張感とか、自信や確信、不安な要素など様々な経験値を得られました。自分達にあって自分達に無いもの、それは何なのか？自分達の音楽とは何なのか？何を指して何の為に音楽を、バンドをやっているのか？...などと深く考えさせられた場でもありました。

これからも、その経験をいかながら音楽を楽しんで行けたらいいなと思います。良い経験でした...



初恋KIDZ (ハツコイキッズ)

今回出演できた事を誇りに思います。本戦は色々なジャンルのグループの人達で、とても楽しむ事ができました。

緊張と不安でステージに立ったけれど、楽しさが勝り、僕達にしかできない音楽を演奏する事ができました。

演奏してる時、僕は今までに見たことのない『新世界』を感じました。僕達はまだ16才と若く、この若さを生かし僕達にしか出来ない音楽が出来ればと思います。

このステージでまた音楽に対する熱い気持ちがよりいっそう高まりました。これからも自分達らしく頑張っていくのでよろしくをお願いします！



超侍状態 (スーパーサムライモード)

ライトミュージックフェスティバルは出場したいコンテストの一つで、ずっと出場を目標にしていたので参加出来た事自体光栄に思います。この経験を糧に更なるレベルアップを目指します。超侍状態とは、もともとソロで活動していた五人が長崎、それから全国の音楽シーンに革命を起こすために結成した超ド級アコースティックBANDです。長崎を中心に九州各地でLIVE活動を展開中。暖かく落ち着いた音、ノリノリのアップテンポなSOUND、ポップスを中心に楽しさを全面に出したLIVEが特徴。一度ご堪能ください。



Boots (ブーツ)

毎日忙しく過ぎていく中でも、いつも歌いたい気持ちを抱きつづけていました。さらにいろんな事が重なり、歌うことに自信をなくしかけていた時も時、ライトミュージック出場決定のお電話を頂き、嬉しくてたまりませんでした。関係者の皆様には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。これからも良いライブをし、良い家庭を築いていきたいと思います。

それと、息子も加えて三人でも演奏したいとも考えています。二人で(三人で)歩みを揃えて頑張っていきます。



THE GO-GO BROTHERS (ザ・ゴーゴブラザーズ)

まず選出して頂いたことに感謝します。また当日会場にいらした来場者&スタッフ各位に感謝します。そして共演した出場者各位に感謝、です。良い経験ができました、良い刺激を得ることができました。他では得られない貴重な時間を過ごせたと思います。素直に「もっと上手くなろう」と思うことができました。演奏技術、表現方法、主題の推敲...やめてしまわない限り、それらは私たちの「伸びしろ」です。世代的に&アバウトに言って厳しいこの時に、暢気この上ない、無邪気な音楽活動ができる幸せも思います。今はまだそれを許してくれている、私を含めたGO-GOメンバーの全環境へ、最後に感謝します。



Ballon d'or (バロンドール)

みなさん、こんにちは！！私達 Ballon d'or は、より多くの人に自分たちの音楽を聴いて欲しいという願いから応募しました。本番は多くのみなさまに応援してもらいそれを受け、気持ちよく演奏ができたことが心に残っています。

これからは、活動の範囲を広げもっと多くの人に Ballon d'or を知って頂ける様に頑張りたいと思います。どこかで見かけたら気軽に声を掛けてください。

会場のみなさん、スタッフ、審査員、共演者の皆様ありがとうございました！！

平成18年11月25日(土) 諫早文化会館

第5回 長崎県 ライトミュージックフェスティバル

「長崎県ライトミュージックフェスティバル」は、県民総参加による新たな文化の創造を目指す「長崎県民文化祭」の県主催事業のひとつです。ジャズ、カントリー、ポップス、アカペラ等幅広い音楽分野を対象とする音楽祭を開催し、県内在住又は県内出身の演奏家の皆さんに発表の機会を提供するとともに、県民の皆様にも鑑賞の機会を提供することを目的に、平成14年度から開催地の市町と協力して開催しています。



ザ・チューチューチュートルズ プロフィール

2004年 Mr.チングルス(Gu)を中心にMiro中古(Vo)、くま☆さと(Dr)で結成。その後、くま☆さとの実兄であるお兄ちゃん(Ba)が加入。当初からチンピラロックンロールバンドと銘打ち、佐世保、長崎のライブハウスから色物扱いされる。

2005年 初めは面白がつて集まってくれた人々もいつしか通のき、メンバー酒をあおる日々...

2006年11月 異事復活！新生チュートルズ！今が一番食べごろです。

「今後の活動目標：Vシネマ出演」

★ボーカル Miro中古 ★ベース お兄ちゃん ★ギター Mr.チングルス ★ドラム くま☆さと

出演者
Boots(ブーツ)
THE GO-GO BROTHERS(ザ・ゴーゴブラザーズ)
THE CHU CHU CHUTLES(ザ・チューチューチュートルズ)
Ballon d'or(バロンドール)
RayzMIST(レイズミスト)
初恋KIDZ(ハツコイキッズ)
超侍状態(スーパーサムライモード)
オープニングゲスト YOGOE HATS(ヨゴエハッツ)
スペシャルゲスト UNDER GRAPH(アンダーグラフ)

審査員
菅原 剣太(エイベックス・プランニング&テベロブメント
ビジネステベロブメント事業部 主任)
熊原 淳一郎(BMG JAPAN 国内制作本部 宣伝部)
石井 寿起(ラズベリーマーケット 代表取締役社長)
宮崎 達朗(STUDIO DOI 代表取締役)
原田 裕介(原田楽器 代表取締役)
深堀 辰之介(長崎県文化・スポーツ振興部 文化振興課長)

本当にありがとうございました。

ライトミュージックフェスティバルにたずさわられた全ての人に感謝しています。

口では大きなことばかり、偉そうなことばかり言っている4人ですが、今だから言いますが、4人が4人とも心臓の弱いチンピラロックンロールバンド THE CHU CHU CHUTLESです。そのせいか、コンテストの2、3日前から4人が4人ともビビビビしていて、今だから言いますが、いつも以上に喧嘩をしてしまったチンピラロックンロールバンド THE CHU CHU CHUTLESです。

今回ありがたいことにグランプリという栄誉ある賞を頂いた僕らですが、これまで谷あり谷あり...たまに小山ありで、いったいどの道がゴールに続く方向なのかかわからず、光が見えない暗闇の中をただただ無我夢中にさまよっていました。そんな状況の中、精神的にも不安定になり、練習で集まれば喧嘩...自分やメンバーに不満がつっていったのも事実です。「何かきっかけは...自分たちが変わるきっかけはないのか...?」

そう思って今大会にデモテープを送りました。11月25日。やっとスタートラインに立てた気がします。

ここから一歩でも二歩でも前進できるように、今後も努力していきたいと思っています。

このような機会を与えてくださった皆さんに感謝します。

ありがとうございました。今だから言いますが、本当は礼儀正しいチンピラロックンロールバンド THE CHU CHU CHUTLESです。



Special Guest

★★スペシャルゲスト★★
UNDER GRAPH
(アンダーグラフ)



★★オープニングゲスト★★
昨年度グランプリ受賞
YOGOE HATS
(ヨゴエハッツ)





第18回 長崎県民文化祭共催事業

長崎交響楽団

～もってこいコンサート～

長崎交響楽団 団長 大槻 隆

おくんち最終日の十月九日、長崎市民会館文化ホールで「もってこいコンサート」を開催しました。今回は、九月三日に開催した一日体験オーケストラの参加者有志、姉妹オーケストラ締結十周年を迎える米・セントポール市民管弦楽団の有志を迎え、にぎやかな演奏会となりました。

また、カルメン序曲・威風堂々など知名度の高い選曲、ワンコイン（五百円）の入場料、団員の司会者を立ててトークを交えながら演奏会を進める、という初めての企画でした。

私達のいつもの定期演奏会は、交響曲をメインプログラムに据えているので、今回のような小品ばかりの演奏会にお客様が足を運んで下さるだろうか、司会者の話がお客様に受けるだろうか、おくんちという日程設定が間違っていないだろうか、などとたくさん不安を抱えての演奏会でした。

いざ開場してみると、お陰様で満員のお客様をお迎えでき、幼児からお年寄りまで、幅広い皆様に大好評を頂きました。クラシック音楽に馴染みのない方にも楽しんで頂けたのではないのでしょうか。

司会者のトークも思いのほか受けて、アンコールの時に「もってこいー」の大合唱が何度も続いたときには、はじめてこの演奏会が成功したと実感できました。

団員以外で出演いただいた子供達、「あなたも指揮者コーナー」で指揮をしてくれた子供達から、「大人になったら長崎交響楽団に入りたい。」というコメントを頂き、団員一同大きな喜びに包まれました。

このような長崎交響楽団の活動によって一人でも多くのクラシックファンが生まれることを願っています。

10月9日(月・祝) 長崎市民会館文化ホール



しまの芸術祭

対馬に音楽の華が咲く！

県立対馬高等学校 吹奏楽部 顧問 中村 明夫



11月25日(土) 対馬市交流センター(厳原町)

日本を代表する作曲家、伊藤康英氏はじめ、超大物の演奏家が対馬にやってくる！

しかも、共演できるうえにレッスンまで受けられる。企画を提案し、先頭に立って事業を推し進めてきた自分ですら身震いを覚えるほどのビッグイベントだ。

平成十一年の春、「対馬高校吹奏楽部と共に、対馬を音楽でいっぱいにするの街にしよう！」との夢を抱いて、意気揚々と玄界灘を渡ったのが昨日のように思い出される。

元々、運動が盛んな土地柄、演奏会用のホールもなく、周囲からは「対馬で音楽?!」とか言われながらも「対馬に音楽の華を咲かせよう」との夢を掲げ、吹奏楽部員と共に精いっぱい練習に励み、学校や地域の体育館を転々としながら演奏会を開いてきた。

先月オープンしたばかりのコンサートホールに演奏会開演のベルが鳴り響く……

ステージには、いつもにも増して瞳を輝かせる吹奏楽部員、この日のために各地から集まってきた卒業生たち。そして音楽器を愛好する一般の対馬の方々。そんな中に、国内を代表するトッププレイヤーが笑顔で楽器を構え、皆が心を一つに、スポットライトを浴び、太陽の如く輝きながら、熱い音楽を奏でている。客席からは聴衆たちの眼差しが、ステージの演奏者を包み込むかのように優しく暖かく……そして満天の星空の如く輝きを放っている。

「対馬に音楽の華が咲く……しみじみと思いながら指揮棒を握っていると、胸に熱いものがこみ上げてきて、視界が急に曇りだし、上を向いて指揮せざるを得なかった。

長崎県はじめ各方面からの協力で成功裡に終わった「しまの芸術祭」。これを機にさらに芸術文化の華咲く「対馬」を育てるため、音楽教諭として、そして対馬市民として、私がやるべき事、そしてやりたい事を吹奏楽部員と共に精いっぱいやっていきたい。

クレッシェンド シーハットおおむら便り

シーハット・ミュージカル劇団 “天正遣欧少年使節” ミュージカル”公演に向けて

財団法人 大村市振興公社 事業部 藤崎 澄雄

毎週木曜日の午後7時を過ぎる頃さくらホールに三々五々集まってくる年齢も職業も違う様々な人々。

保護者に車で送ってもらおう小学生、学校帰りに自転車に乗ってくる高校生、お隣の東彼杵町からバイクで通う大学生、仕事帰りに駆けつける大人の皆さんたち。これから稽古を始める総勢40名あまりの市民役者たちです。

平成14年の大村市制60周年記念事業のひとつとして取り組みが始まった「市民ミュージカル」も来年で5年。参加者もキャスト・スタッフ延べ400名、観劇者も延べ7000名をこえて、すっかりシーハットの名物として定着しつつあります。

今回、5作目を迎える古里をテーマにしたオリジナルミュージカルは、日本を、長崎を、大村をヨーロッパに初めて知らしめることとなった世界的な史実の「天正遣欧少年使節」をテーマにした作品に大胆にも挑みます。昨年の6月から、文化庁の「文化芸術による創造のまち」支援事業の助成を受けて、東京の劇団昂の演出家菊池さんを始め、プロの指導を受けながら、台本・音楽の制作や振付・衣装・装置・音響・照明のスタッフ養成とキャストの中心的存在となる「シーハットミュージカル劇団」育成を今年3月までかけて行っています。

今年3月には、30分程度の作品発表を行って、8月の本番につなげていく計画です。昨年の10月に発表会の題材として4少年の「船出」のシーンの台本も出来上がり、挿入曲も6曲がほぼ仕上がって、現在振付チームがそのシーンごとの踊りの構想を練っています。このレポートが掲載される頃は通し稽古も結構形となって見れるようになっていくものと思います。大村以外にも、できれば県内や県外でもこの作品を上演して、多くの方々に、「天正遣欧少年使節」の壮大なドラマを知っていただき、古里長崎の素晴らしさを再認識していただきたいと思います。ぜひ、あなたの町でも検討ください。



第21回江迎町音楽祭

感動と笑顔にあえる町「江迎」にて

「江迎町音楽祭」10月21日(土)
(インフィニタス江迎町文化会館)

10月21日、若手アーティスト派遣事業により江迎町音楽祭に出演させて頂きました。
会場に到着すると、教育長さんをはじめ、子どもからお年寄りの方まで大勢の皆さんに笑顔で迎えて頂きました。その笑顔が演奏前の私のエネルギーとなったのは言うまでもありません。
本番が始まり、一曲歌い終える度に聞こえる大きな拍手や声援は、私の緊張を拭い去り、歌う喜びに変えてくれました。そして、最後の9曲目を歌い終えた時に聞こえたのは「アンコール！」の声。私の心に深く響いたことを今でも覚えています。江迎町の皆さんの心の暖かさ・優しさに感動した瞬間でした。
今回、皆さんに「歌う心を届けよう」と臨んだ演奏会でしたが、私自身が皆さんからたくさん力の頂きました。それらは私の宝物です。この宝物を大切に、これからも歌の勉強に励みたいと思います。また感動と笑顔にあえる日まで……。

古田 梨紗
(ソプラノ歌手)

飯盛文化祭に出演して

山口 弥生
フルート奏者

クラシック音楽をもっと身近に感じてもらいたいという想いで演奏活動を行っている私にとって、たくさんの方の聴衆の前で演奏することはとても幸せなことです。今回飯盛町の文化祭に出演させていただき、子どもさんからご年配の方まで幅広い年齢層の皆様の前で演奏することができ、大変いい経験になりました。知っている曲を口ずさんでくださる方、リズムを取りながら聴いてくださる方など、音楽を楽しんでくださっている様子がわかり、演奏していて嬉しい気持ちになりました。

この経験を生かし、これからも地元である諫早を中心に、さらにクラシック音楽、音楽の素晴らしさを伝えられるよう、演奏を続けていきたいと思っています。



「飯盛文化祭」11月3日(金・祝)
(いじもじ「ミュージニティ会館」)

◎若手アーティスト派遣事業とは

県文化団体協議会加盟団体からの要請により、長崎県新人演奏会出演者を派遣する事業です。派遣経費のうち、出演者旅費と出演料を要領に沿って県文化団体協議会が負担するものです。18年度は他に、鹿町町文化協会のイベントに参加しました。

佐世保市民管弦楽団 第50回記念定期演奏会

- 日時／平成19年2月11日(日)
◎開場13時 ◎開演14時
- 会場／アルカスSASEBO 大ホール
- 曲目／レ・プレリュード (リスト)
バレエ音楽「白鳥の湖」より
(チャイコフスキー)
交響曲第5番ハ短調作品55
「運命」 (ベートーヴェン)



第47回定期演奏会(写真提供：U2ワシカルレコーディング)

お問い合わせ／佐世保市民管弦楽団事務局(蒲田)
TEL&FAX.0956-28-4453

●13:00～13:30 楽器体験コーナー(大ホール内)

昭和39年に発足した佐世保市民管弦楽団が50回目の定演を記念して、小学生の親子50組を招待します。また、オーケストラの楽器も体験していただけます。

クラシック音楽の中でも、広く親しまれている曲を中心に構成しています。ぜひ足をお運び下さい。

第51回長崎県美術展覧会公募展

県展

県知事賞受賞者

日本画：野田るり子
 洋画：吉田 正勝
 彫刻：近藤由利香
 工芸：中村 慎
 書：田中 光美
 写真：阪井 正香
 デザイン：町永 愛



【野口彌太郎賞】

◎部門：洋画 ◎題名：トラウマ
 ◎氏名：塩谷のぞみ



【西望平和賞】

◎部門：洋画 ◎題名：網
 ◎氏名：吉田 正勝 ※洋画部門の県知事賞

第51回県展公募展が、9月～10月にかけて、長崎・佐世保・諫早の3会場で開かれた。また本展に引き続き、島原市、壱岐市、雲仙市の3会場で移動展が開かれた。今年は、日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真・デザインの7部門に1,931点の出品があり、西望平和賞に吉田正勝氏(洋画)、洋画の進展並びに新人の育成と奨励を目的として設けられている野口彌太郎賞に塩谷のぞみ氏が選ばれた。

また、昨年に引き続き実施したワークショップ(日本画・洋画・書の3部門に小学生49名が参加)、オークション(本県在住作家56作品が提供)事業には多くの県民が参加し、話題を呼んだ。

島原市会場

11月9日(木)～11月12日(日)の4日間、島原市有明総合文化会館で開催。ワークショップでは川添貞秀氏ほかによる小学生に対する陶芸の実技体験が行われた。



〔移動展〕

展示作品は
 いずれの会場も
 約110点前後

壱岐市会場

11月16日(木)～11月19日(日)の4日間、壱岐文化ホールで開催。溝川純浩氏ほかによるワークショップでは、武生水中学校の皆さんが油絵にチャレンジした。



雲仙市会場

11月23日(木)～11月26日(日)の4日間、愛野農業者トレーニングセンターで開催。荒木喜八郎氏ほかによる写真ワークショップでは子どもたちに混って一般の皆さんも撮影した画像をパソコンに取り込んで楽しい時間を過ごした。



2007年1月6日(土)～3月25日(日)

観覧料：一般1,200円(1,000円)、大学生・70歳以上900円(700円)、高校生600円(400円)

※()内は前売および団体料金 ※中学生以下は無料 ※開館時間10:00～20:00

<最終日は18:00まで(入場は開館の30分前まで)>



ピーテル・ブリューゲル(父)《イカロスの墜落》 ©KMSKB-MRBAB

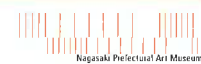
ベルギー 王立美術館展

ブリュッセル、ルーベンス、マグリット、デルヴォー……巨匠たちの400年

200年以上の歴史を持つベルギー最大の美術館であるベルギー王立美術館。本展では、同美術館の所蔵品を通して、フランドル派を代表する画家ブリュッセル、ルーベンスから、アンソールやクノッッフ、そしてシュルレアリストのマグリットやデルヴォーまで、ベルギー美術400年の歴史をご紹介します。

東京・大阪以外は長崎のみで開催の本展覧会では、十七世紀バロック絵画を代表する画家であり、フランドルの犬で主人公ネロが描かれた画家、ルーベンスの作品や、イメーシの魔術師と呼ばれる「マグリット」の作品に出会うことができます。

お問い合わせ 長崎県美術館 TEL.095 (833) 2110

〒850-0862 長崎県長崎市出島町2番1号 ホームページ <http://www.nagasaki-museum.jp>

長崎県美術館

中国文化的精華「BEIJING OPERA-京劇-」展

■会 期 2007年2月24日(土)～3月25日(日)

■会 場 長崎歴史文化博物館 3階企画展示室

■開館時間 8:30～19:00(最終入館18:30)

■観 覧 料 大人 600円 高校生 400円 小・中学生 300円
 (480円) (320円) (240円)

※()内は前売り・団体料金

会期中の平成19年2月18日～3月4日まで長崎市では、2007長崎ランタンフェスティバルが開催されます。長崎市が中国一色となるこの時期にあわせ、本企画展では京劇の演目のひとつ、西遊記の孫悟空・三蔵法師・沙悟浄、猪八戒の衣装などの展示や、京劇独特の隈取り面や、京劇伴奏楽器である二胡、京二胡や大ドラ、京劇の道具である刀、槍、剣ほか、京劇梨園の名優である程長庚(テイ・チョウコウ)や梅蘭芳(メイ・ランファン)などの写真パネルを展示いたします。また、本場中国の演者による京劇公演や中国映画の上映も行います。



※写真はイメージです

お問い合わせ 長崎歴史文化博物館 TEL.095 (818) 8366

〒850-0007 長崎県長崎市立山1-1-1 ホームページ <http://www.nmhc.jp/>長崎歴史文化博物館
Nagasaki Museum of History and Culture

長崎県の歴史がぐんと面白くなるおすすめ本

長崎県企画「ながさき歴史発見・発信プロジェクト」



旅する長崎学

A5判、64ページ
オールカラー
各号**600円**
(税込)

思わず「旅」したくなる歴史ガイドブックが登場！

長崎県の歴史は、万華鏡のように多彩な輝きを放ちながら、
今も人々をあの歴史の舞台へと心誘う。

長崎県では、本県の歴史をテーマごとにわかりやすく紹介する
シリーズ本『旅する長崎学』を創刊し、現在「キリシタン文化編」を好評発売中です。
歴史のなかに潜む新たな発見や、意外なつながりを探訪する楽しみ、
歴史の舞台となった場所でしか味わえない感動をお届けします。

「キリシタン文化編」好評発売中！

心惹かれる教会のある風景、そこにはキリシタンの歴史と今がある。

長崎県企画による
画期的なガイドブックの
新シリーズ創刊

写真や資料が満載の
ビジュアル編集で
わかりやすさ抜群

歴史ストーリーの中に
長崎県の歴史・文化の
魅力が際立つ

旅に便利な
コンパクトサイズで
地図・施設ガイドも充実



第1号 長崎で「ザビエル」を探す



第2号 長崎発ローマ行き、天正の旅



第3号 26聖人殉教、島原の乱から鎖国へ



第4号「マリア像」が見た奇跡の長崎



第5号 教会と学校が長崎の歴史を語る



■ブックケース入り5冊セット
3,300円(税込)

【お問い合わせ】

『プロジェクト』について
『旅する長崎学』について

長崎県文化振興課 TEL.095-895-2762
(株)長崎文献社 TEL.095-823-5247

第35回 長崎県新人演奏会 “公開オーディション”のお知らせ

平成19年2月15・16日、とぎつカナリーホール
でオーディションを開催します。観覧無料です。
応募者60名の若い演奏家たちのフレッシュな演
奏をお楽しみ下さい。

■日 時／平成19年2月15日(木)・16日(金)
午前10時半～

■会 場／とぎつカナリーホール
西彼杵郡時津町野田郷62
TEL(095)882-0003

■部 門／声楽・ピアノ・管楽器・弦楽器・ギター
■入場料／無料

問合せ／長崎県文化団体協議会 TEL(095)822-6049



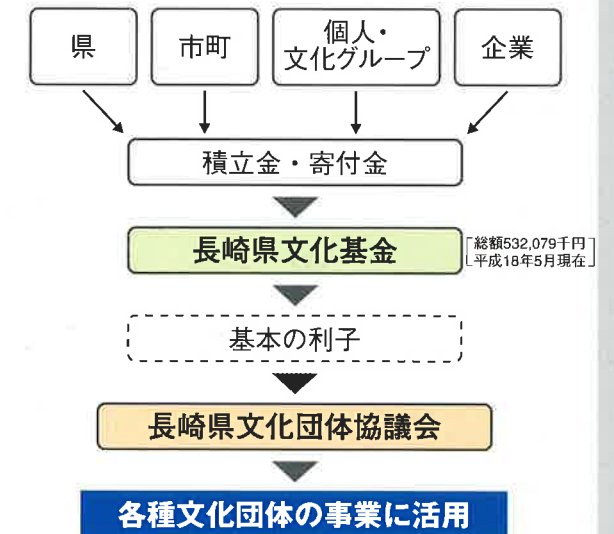
主催／長崎県文化団体協議会 共催／長崎県・長崎市・時津町
後援／マスコミ各社

◎長崎県文化団体協議会とは？

「長崎県内における芸術文化団体相互の連絡
協調を図り、文化活動を促進して県民文化の向
上を期する」ことを目的に昭和38年発足。現在
98団体が加盟しています。会長は金子原二郎
長崎県知事。

文化基金へご協力下さい

長崎県文化基金のしくみ



■長崎県文化基金は・・・

- 本県の芸術文化の振興と普及を図るために昭和51年
に長崎県が創設し、運用しています。
- 県、市町、企業のほか、文化団体や個人の寄附により、
その金額は5億円を超えています。
- 基本の利子は長崎県文化団体協議会を通じて、各種
文化団体の事業に活用されています。

■県文化基金への寄附は税制上の優遇措置があります。

- 個人の場合
国税については寄附された金額、又は所得金額の30
%のいずれか少ない金額より5千円を差し引いた額
が所得控除の対象となります。県・市町民税につい
ては控除はありません。
- 法人の場合
国・県・市町民税については寄附された金額の全額が
損金算入されます。

◎編集後記

・文協の編集に携わって今号で5冊目。文化活動を始める
きっかけは人それぞれだが、文化は生活を潤すだけでなく、
人生を変える事もあるのだと取材を通じて実感させら
れた。来号でも魅力的な方々に出会えるのを楽しみにし
ています。(野崎)

・人は年齢を経る度に、味わいのある顔になる。老舗、大老、
「老」という言葉には、単に年長者という意味だけでなく、
尊敬を集める人という意味がある。民謡舞踊連盟の石橋
さんの笑顔を見てそう思った。(江口)

BUNKYO 文協

第66号(2007)平成19年 1月発行

発行／長崎県文化団体協議会

住所／〒850-8570 長崎市江戸町2番13号

長崎県文化・スポーツ振興部 文化振興課内

電話／TEL.(095)822-6049 FAX.(095)829-2336

編集／長崎県文化団体協議会事務局

印刷／日本紙工印刷(株)